



The Coca-Cola Educational &
Environmental Foundation

報道関係各位

2011年7月4日
財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

全国の小学生から大学生 174 団体から環境教育の発展に寄与する団体を選定
『第 18 回コカ・コーラ環境教育賞』
優秀賞 15 団体が決定！8 月の最終選考会で大賞を目指す

財団法人コカ・コーラ教育・環境財団（所在地：東京都港区 理事長：末吉紀雄）が実施する「第 18 回コカ・コーラ環境教育賞」では、全国応募数 174 団体の中から、環境教育に関する顕著な活動への顕彰及び環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画であるとし、15 団体を優秀賞に選出いたしましたのでお知らせいたします。

1994 年の創設から 18 回目を迎えるコカ・コーラ環境教育賞は、環境ボランティア活動の助成・支援を通じた環境教育・環境保全活動の促進を目的とし実施されてきました。同賞は国内の環境教育分野のさらなる推進に寄与するため、2009 年度より「活動表彰部門」「次世代支援部門」の 2 部門にて全国公募を実施しております。

今年度の応募総数 174 団体（活動表彰部門：115 団体、次世代支援部門：59 団体）から優秀賞受賞団体に選出された 15 団体は、8 月 5 日（金）～7 日（日）に「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」（北海道夕張郡栗山町）にて開催される『コカ・コーラ環境フォーラム』に参加。フォーラム内で実施する最終選考会（8 月 6 日（土）実施予定）でプレゼンテーションを実施し、大賞を目指します。

■ 第 18 回コカ・コーラ環境教育賞 「活動表彰部門」選出 10 団体

- | | | |
|--------------------------|-----|------|
| ① 氷見市立十二町小学校 | 富山県 | 氷見市 |
| ② 北九州市立曾根東小学校 | 福岡県 | 北九州市 |
| ③ 牛久市立牛久第三中学校 | 茨城県 | 牛久市 |
| ④ リバーネット 21 ながめま | 北海道 | 長沼町 |
| ⑤ 南部町立名久井小学校 | 青森県 | 三戸郡 |
| ⑥ 浦添市立港川小学校 4 年生 | 沖縄県 | 浦添市 |
| ⑦ 京都市立蜂ヶ岡中学校 | 京都府 | 京都市 |
| ⑧ 熊本市立清水小学校 | 熊本県 | 熊本市 |
| ⑨ 小垣江小学校（4 年生） | 愛知県 | 刈谷市 |
| ⑩ NPO 法人ピオトープ・イタンキ in 室蘭 | 北海道 | 室蘭市 |

■ 第 18 回コカ・コーラ環境教育賞 「次世代支援部門」選出 5 団体

- | | | |
|-----------------------------------|-----|-----|
| ① 京都府立桂高等学校 バイオテクノロジー部 | 京都府 | 京都市 |
| ② 石川県立津幡高等学校 朱鷺サポート隊 | 石川県 | 津幡町 |
| ③ 栃木農業高校 地域おこしプロジェクト班 | 栃木県 | 栃木市 |
| ④ 青森県立名久井農業高等学校
チーム・フローラフォトニクス | 青森県 | 南部町 |
| ⑤ 兵庫県立播磨農業高等学校 サイエンス部 | 兵庫県 | 加西市 |

※本件資料は文部科学省記者会、環境省記者会、
東商クラブ、農政クラブ、農林記者会にて配布しております。

■ 『第 18 回コカ・コーラ環境教育賞』概要

名称	第 18 回コカ・コーラ環境教育賞
主催	財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
部門	<活動表彰部門> 小中学生とその指導者を対象として環境教育・環境保全活動の実績を顕彰
	<次世代支援部門> 高校生および大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価、支援
支援内容	<活動表彰部門> 大賞（1 組） 活動助成金 50 万円 優秀賞（9 組） 10 万円
	<次世代支援部門> 大賞（1 組） 企画支援金 100 万円 優秀賞（4 組） 30 万円

■ 『第 18 回コカ・コーラ環境教育賞』 優秀賞選出団体・活動要旨

➤ 「活動表彰部門」 選出 10 団体・活動要旨

- ① 氷見市立十二町小学校（富山県 氷見市）
オニバスの栽培研究、絶滅危惧種イタセンパラの飼育研究、白鳥の観察を長年継続して実施。2009 年に、国内初となる学校でのイタセンパラの人工孵化に成功した。動植物の研究を大学や行政、有識者の指導を受け、家庭や地域と連携・協力して活動している。学習発表会やホームページで研究成果を情報発信している。
- ② 北九州市立曾根東小学校（福岡県 北九州市）
干潟の清掃・体験学習を、1993 年から地域を巻き込んで継続的に実施。児童の発案で始まった「曾根干潟クリーン作戦」は、保護者・漁協・自治会・保育園・行政・企業など、総勢 600 名を超える地域の一大イベントとして根付いている。また、子供にも実践可能な CO2 削減方法を考えるなどの活動にも取り組む。
- ③ 牛久市立牛久第三中学校（茨城県 牛久市）
「牛久沼の環境を知ろう」をテーマに、科学的・社会的に調査する方法を体験プログラム化。季節ごとに生き物・植生・水質の調査を実施。牛久沼の環境を改善する方法を探るため、学校のプールをビオトープ化し、牛久沼再生モデル実験を行う。「うしくサイエンス・フェスタ」などで活動内容の発表や環境改善の提案を行っている。
- ④ リバーネット 21 ながぬま（北海道 長沼町）
小中学生を対象に、河川環境啓発活動を実施。長沼町が、過去多くの水害に悩まされてきた背景から、水辺環境の重要性を伝えるために自然体験学習の支援を行っている。河川に関わる関係機関と連携し、河川環境の調査・研究活動にも取り組んでいる。
- ⑤ 南部町立名久井小学校（青森県 三戸郡）
多彩な水環境保全活動を実施。水生生物調査、如来堂川クリーン作戦、源流観察、サケの稚魚放流などに取り組んでいる。リサイクルおもちゃ作り、廃油石鹸作りを行う「環境学習」や、全校で緑のカーテン作りを行うなど、多岐にわたる活動を行っている。
- ⑥ 浦添市立港川小学校 4 年生（沖縄県 浦添市）
地域の海の生態系の学習、自然環境の保護・保全活動などに取り組む。地域の自然に触れて学んだ環境保全の必要性を、児童が保護者や地域の人々向けの発表会などを通して発信。専門家との連携を図りながら、環境教育を継続的に実施している。

⑦ 京都市立蜂ヶ岡中学校（京都府 京都市）

植栽活動を中心に地域を巻き込んだ環境活動を実施。2005年から環境教育の取り組みを充実させ、植栽活動・節水・節電・雨水タンク・伐採木の再利用・エコキャップ・空き缶回収・緑のカーテン・環境カルタ・廃油せっけんなど、多岐に渡る環境活動を展開。

⑧ 熊本市立清水小学校（熊本県 熊本市）

「緑を愛し育て守る清水っ子」を目標に活動を展開。地域と協力し、自然とふれ合う活動（緑化活動、樹木札作りなど）やエコ活動（堆肥化マシン、雨水くんなど）、エコ学習に取り組み、循環型の社会を目指した活動を行っている。

⑨ 小垣江小学校（4年生）（愛知県 刈谷市）

「ホタルがいっぱい飛ぶ小垣江にしたい!」という願いのもと、幼虫の飼育活動をはじめ、校内のホタル池作り、地域を流れる川や湧水池の水質検査、清掃、外敵駆除など、子供たちが考えた方法でユニークな活動を行っている。また、介護老人施設へのホタル幼虫プレゼントやホタル新聞の発行など地域へ情報発信し、昨年度、これらのレポートは環境省に提出。

⑩ NPO 法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭（北海道 室蘭市）

2006年からビオトープの造成を進め、今春で造成計画を完了。トンボやミズカマキリやガムシが定着し、ホタル復活も実現。「ビオトープ・イタンキ」は「獲物のあるビオトープ」として、子ども達が自由に採集もできる自然体験の場となっている。水域が充実し、小学生の授業として観察会（トンボ捕りや魚すくい）や自然体験の受け入れも可能になってきている。

➤ 「次世代支援部門」選出5団体・活動要旨

① 京都府立桂高等学校 バイオテクノロジー部（京都府 京都市）

コケ植物によるヒートアイランド現象の緩和と普及活動。コケ植物の持つ、軽量、管理の容易さ、乾燥にきわめて強い性質を活用し、壁面緑化からヒートアイランド現象の緩和を図る。そして、この研究の成果を小学生や中学生さらに一般の方々にも紹介し、普及に努める。

② 石川県立津幡高等学校 朱鷺サポート隊（石川県 津幡町）

トキと共生する里山の再生、啓発活動。食・農・環境を関連づけた学習を行うとともにトキへの関心を高める啓発を実施。イネやマコモ（多年草）を無農薬で栽培、トキや野鳥の餌場を作る。また町内小中学校など25カ所にバケツマコモを配布し、環境学習に使用してもらう。

③ 栃木農業高校 地域おこしプロジェクト班（栃木県 栃木市）

水生植物のヨシから堆肥を考案、足尾銅山の土壌改善に役立てる。足尾銅山は鉱毒事件以降環境が悪化したが、遊水地一帯は現在ヨシの湿原となっている。そこで、従来雑草化し廃棄されていたヨシを、堆肥として使用することで、足尾銅山の土壌改善と緑化を図っていく。

④ 青森県立名久井農業高等学校 チーム・フローラフォトニクス（青森県 南部町）

津波被害を受けた絶滅危惧種サクラソウの採種を県と共に実施し、貴重な生物資源として保存。増殖後は株を保存する市民参加型の保護活動につなげる。さらに、塩害を受けた花壇の早期再生のために新しい除塩と土壌改良技術を開発し、花壇や農地の復旧活動に取り組む。

⑤ 兵庫県立播磨農業高等学校 サイエンス部（兵庫県 加西市）

地元小学校と連携し、絶滅危惧種の水生植物、ミズトラノオの保護活動を展開。加西市に自生するミズトラノオは環境省のレッドリストに指定されており、同市は関西で確認できる唯一の自生地。校内では株の増殖を実践し、昨年度からの小学校との連携教育を今年度も実施。

参考資料 第17回コカ・コーラ環境教育賞（受賞団体・最終選考会/表彰式）

■ 活動表彰部門 大賞受賞団体 「さいたま市立日進小学校」（埼玉県さいたま市）

活動地域： 埼玉県
代表者： 下條清



主な活動内容：

保護者や地域の環境ボランティアと連携し、柔軟で継続的な活動を実施。ビオトープの整備・維持・管理、野生動物の保護活動、絶滅危惧種のタコノアシやニホンアカガエルの保護・育成、校内の下草刈り・植樹、環境勉強会などを行っている。

<優秀賞受賞団体（9団体）>

- 潟上市立大久保小学校（秋田県）
- 葉鹿エコクラブ（栃木県）
- 八溝自然たんけんたい（茨城県）
- 品川区立第一日野小学校（東京都）
- 加茂郡東白川村立東白川中学校（岐阜県）
- 東近江市立能登川南小学校（滋賀県）
- 三豊市立下高瀬小学校（香川県）
- 延岡市立三川内中学校（宮崎県）
- 久米島ホテルの会（沖縄県）

■ 次世代支援部門 大賞受賞団体 「沖縄県立宮古総合実業高等学校 環境班」（沖縄県宮古島市）

活動地域： 沖縄県
代表者： 奥平光



主な活動内容：

地下水の保全のために水質調査を実施し、有機肥料を開発・活用。宮古島の地下水の汚染物質である硝酸態窒素の濃度を測定し現状を把握・監視。有機肥料を開発し島の農業に普及させる。また、島で栽培歴のない蕎麦の育成にも挑戦している。

<優秀賞受賞団体（4団体）>

- 岩見沢農業高等学校（北海道）
- 富山県立中央農業高等学校 農業特別専攻科
「農と食と環境を結ぶ環境創造型農法開発チーム」（富山県）
- 佐賀県立唐津南高等学校 農業クラブ
「松露プロジェクトチーム」（佐賀県）
- 熊本県立八代農業高等学校泉分校（熊本県）

■ 最終選考会/表彰式の様子

「第17回コカ・コーラ環境教育賞」最終選考会は、2010年8月7（土）、北海道夕張郡栗山町の「コカ・コーラ環境ハウス」にて行われ、15のノミネート団体が日頃の成果や今後の取組みについて発表し、その中から両部門の大賞受賞団体が決定しました。表彰式では、コカ・コーラ教育・環境財団の理事および選考委員、スペシャルゲストのフリースタイルスキー・女子モーグルの上村愛子選手より、受賞15団体の代表者に楯と副賞として活動助成金が贈呈されました。



コカ・コーラ環境教育賞／財団法人コカ・コーラ教育環境財団について

■ コカ・コーラ環境教育賞とは

コカ・コーラ環境教育賞は、環境ボランティア活動の助成・支援を通して、環境教育・環境保全活動を促進する事を目的に、1994年に創設されました。以来、16年にわたり、環境教育に関する活動が顕著である団体・個人を顕彰しています。

2009年より、小中学生を対象にした地域社会の環境教育に関する活動実績を顕彰する「活動表彰部門」と、高校生および大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を支援する「次世代支援部門」の2部門制へと発展しました。

■ コカ・コーラ環境教育賞の目的

小中学生を対象にした地域社会の環境教育に関する活動実績を顕彰し、今後の活動発展を助成します。また、高校生および大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価し、具現化に向けた支援を行います。

■ 財団法人コカ・コーラ教育・環境財団とは

財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、2007年、37年間継続している日本コカ・コーラボトラーズ育英会と14年継続しているコカ・コーラ環境教育財団の事業を継承、一元的に運営、推進できる母体として設立されました。心豊かでたくましい人づくり（Healthy Active Life）を理念とし、環境教育、教育支援、スポーツ教育を柱とした貢献事業を企画、提供することにより、国際社会が求める青少年の育成と、彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を通じ、豊かな社会の形成及び国際親善に寄与することを目的としています。